

II. 平成22年度 活動報告

2. センターとしての取り組み

▪ みえ産学官研究交流フォーラム2010

▪ 三重大学発産学官連携セミナー in 伊賀 2010

▪ 第2回三重大学発産学官連携セミナー in 伊賀 2010

▪ 第4回三重大学先端研究シンポジウム

▪ 行事報告

▪ 出版物

▪ 三重ティーエルオーからの報告

みえ産学官研究交流フォーラム2010

開催日：平成22年11月5日（金）、6日（土）

場所：四日市ドーム（四日市市 霞ヶ浦緑地内）

「リーディング産業展みえ2010」併催行事

11月5日～6日、四日市ドームにおいて標記フォーラムが開催されました。県内の大学、高専、公設試験場、支援機関が一同に集まり、教育・研究や社会貢献などの取り組みや成果を展示し、地域への情報発信、さらには新しい連携先の発掘を行いました。また、県内最大の産業展である「リーディング産業展みえ」との同時開催も5年目となり、展示やセミナー、合同の企業相談コーナーの企画など、開催効果を高める連携も年々深まってきました。その関係で、今年は知的財産マッチングセミナー(基調講演=狩野幹人助教・知的財産統括室)や「みえ"食発・地域イノベーション"創造拠点」プレオープニングイベント～企業ネットワーク(仮称)のキックオフ会も行われ、2日間で約7,000名の来場者がありました。



みえ産学官研究交流フォーラム2010 出展者一覧

鈴鹿国際大学、鳥羽商船高等専門学校、三重県立看護大学、近畿大学工業高等専門学校、中勢北部サイエンスシティ企業誘致促進協議会（津市）、(財)三重県産業支援センター、(株)三重ティーエルオー、NPO 法人みえ治験医療ネット、【三重県】林業研究所／工業研究所／農業研究所／水産研究所／知的所有権センター、【三重大学】大学院地域イノベーション学研究科・みえ“食発・地域イノベーション”創造拠点／リサーチセンター／大学院工学研究科エネルギー環境工学研究室／大学院工学研究科リポソームバイオ工学研究室／大学院工学研究科「美」（うま）し国おこし・三重さきもり塾」・自然災害対策室(DiMO)／中部電力との産学連携活動／伊賀研究拠点／大学院生物資源学研究科／人文学部／【三重大学キャンパス・インキュベータ】ピーアンドディーパートナーズ(株)／(株)プリンシプル／アンカーアセットマネジメント研究会／うれし野ラボ(株)／バイオコモ(株)／(株)ファイナルマーケット

主催 / みえ産学官研究交流フォーラム実行委員会

(三重県、津市、(財)三重県産業支援センター、
中勢北部サイエンスシティ企業誘致促進協議会、(株)三重ティーエルオー、三重大学)

三重大学産学官連携セミナー in 伊賀 2010

主催：三重大学／共催：三重県、伊賀市、(財)伊賀市文化都市協会

開催日：平成22年7月16日(金)

場所：ヒルホテル サンピア伊賀 4階 白鳳の間

7月16日、伊賀市のヒルホテルサンピア伊賀において、標記セミナーを開催しました。セミナーでは、本学の前身である三重高等農林学校の卒業生であり、文化勲章を受章された沢田敏男京都大学元総長により「産学官連携に向けて」、内田淳正学長により「三重大学のこれから」と題する講演がありました。また、伊賀市農林振興課の小林康志主幹と伊賀研究拠点の山本好男教授から、菜の花プロジェクトから生まれた新製品紹介について報告がありました。本セミナーの開催にあたり、本学三翠同窓会のご支援をいただきました。

開会挨拶

三重大学副学長(研究担当理事)

三重大学三翠同窓会長

伊賀市長

名張市長

三重県健康福祉部長

鈴木 宏治

内山 則夫

内保 博仁

亀井 利克

真伏 秀樹



講演 1

『産学官連携に向けて』

京都大学名誉教授(京都大学元総長)

(文化勲章受章者・伊賀市名誉市民)

沢田 敏男



講演 2

『三重大学のこれから』

三重大学長

内田 淳正

報告

『菜の花プロジェクトから生まれた新製品紹介』

伊賀市産業建設部農林振興課

三重大学社会連携研究センター

主幹

教授

小林 康志

山本 好男

閉会挨拶

三重大学大学院生物資源学研究科

(三重大学伊賀研究拠点所長)

教授

前田 広人



第2回三重大学発産学官連携セミナー in 伊賀 2010

主催：三重大学／共催：三重県、伊賀市、伊賀市教育委員会、(財)伊賀市文化都市協会

開催日：平成23年1月28日（金）

場所：ヒルホテル サンピア伊賀 4階 白鳳の間

1月28日、伊賀市のヒルホテルサンピア伊賀において、大学の知と伊賀地域ならびに企業との連携を推進して地域活性化を推進するために、標記セミナーを開催しました。セミナーでは、「地域連携への取り組みと三重大学発果樹栽培の新技术」（平塚伸フィールドサイエンスセンター長）と題した基調講演が行われ、「組み込み機器の設計開発」（巽吉史氏・日本ソフトウェアサービス株式会社）、「酵素を使用した水質改善剤の研究・実用化」（小原貞和氏）、「有害獣として捕獲した獣肉等の有効活用」（中森律子氏・有限会社芭蕉農林）の報告がありました。当日は、県や市、地元企業などの関係者約137名が参加し、有意義なセミナーとなりました。

開会挨拶

三重大学長

伊賀市長

名張市長

三重県健康福祉部 健康・安全分野総括室長

内田 淳正

内保 博仁

亀井 利克

永田 克行



報告

「伊賀研究拠点の活動について」

三重大学社会連携研究センター コーディネーター

人見 一晴

インキュベーション入居者報告1

「組み込み機器の設計開発」

日本ソフトウェアサービス株式会社

巽 吉史

インキュベーション入居者報告2

「酵素を使用した水質改善剤の研究・実用化」

小原 貞和

共同研究から

「有害獣として捕獲した獣肉等の有効活用」

有限会社芭蕉農林

中森 律子

受託研究・受託事業から

受託事業「獣害の実態調査および獣害対策ワークショップの実施」

受託研究「菜の花プロジェクト・簡易工法による湿田の乾田化事業」

三重大学社会連携研究センター伊賀研究拠点 教授 山本 好男

閉会挨拶

三重大学大学院生物資源学研究科 教授

江原 宏

(三重大学伊賀研究拠点所長)



第4回三重大大学先端研究シンジウム

三重大大学クリスマスシンポジウム

～ 環境・自然を考える最先端研究 ～

主催：三重大大学 後援：三重県、津市、四日市市、鈴鹿市、コラボ産学官三重支部、(株)三重 TLO

開催日：平成22年12月9日（木）

場所：都市センターホテル5F（オリオン）

12月9日、都市センターホテル(東京)で標記シンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、内田淳正学長の主催者挨拶、関庄一郎環境省水環境担当審議官による来賓挨拶の後、(株)小松製作所(コマツ)の野路國夫社長による「環境技術と企業活動」と題した特別講演が行われました。引き続き、「カーボンフリー大学を目指して」と「自然と共に生きる医療」をテーマに、本学の教員(地域イノベーション学研究科：坂内正明教授、工学研究科：前田太佳夫教授、今西誠之准教授、医学系研究科：水谷仁教授、湯田厚司准教授、保健管理センター所長・住田安弘教授)から最新の研究活動と社会貢献活動の紹介があり、約200名の参加者から高い評価をいただきました。



《シンポジウムプログラム》

主催者挨拶 三重大学長 内田 淳正
来賓御挨拶 環境省水環境担当審議官／関 庄一郎 氏
特別講演 「環境技術と企業活動」コマツ社長／野路 國夫 氏

講演

《カーボンフリー大学を目指して》

- スマートキャンパス inMieUniversity ～地域と歩む大学のインテリジェンシー～
地域イノベーション学研究科 教授／坂内 正明
- 環境に優しい「進化する風車」 ～自然や社会の環境に対応する風力発電～
工学研究科 教授／前田 太佳夫
- リチウム・空気二次電池は究極の電池～今が旬、リチウム・空気二次電池が世界を変える!～
工学研究科 准教授／今西 誠之

《自然と共に生きる医療》

- 生活習慣病に打ち勝つ食と運動とは ～健康ツーリズムの先駆けは三重から～
保健管理センター 教授／住田 安弘
- 自然環境とスギ花粉症 ～自然環境の中で生きるスギ花粉、最新治療技術はどう戦う～
医学系研究科 准教授／湯田 厚司
- 環境と皮膚の病気：アトピー性皮膚炎の最新科学～環境と上手につきあい、アトピーを癒す～
医学系研究科 教授／水谷 仁

行事報告

出展行事

社会連携研究センターは、各地で行われるさまざまな展示発表会に積極的に出展・参加し、三重大大学の新たな研究シーズを紹介しています。

日 時		名 称
平成22年	6月5日	科学・技術フェスタin京都
	6月30～7月2日	第9回 国際バイオEXPO
	7月8, 9日	東海3大学 新技術説明会
	9月7～10日	フードテック2010－国際食品産業展2010大阪
	9月29日～10月1日	イノベーション・ジャパン2009
	9月29日～10月1日	BioJapan2010
	10月19日	第2回東海地区「大学発ベンチャーカンファレンス」
	11月15日	第3回東海ニューテクノフォーラム
	11月25～27日	アグリビジネス創出フェア2010
平成23年	3月2日～4日	FC EXPO2011

産学官連携による行事

社会連携研究センターは産学官連携による、さまざまなイベントを企画・実施しています。

日 時	名 称	主 催
2010／6／13	グルメディカルツアー 〈脂肪肝と糖代謝セミナー&治療食ランチツアー〉	消化器肝臓内科／管理栄養室
2010／7／29	2010年度 第1回 地域資源活用研究会	みえメディカル研究会
2010／8／6	第3回BDFセミナー	三重大大学伊賀研究拠点・伊賀市
2010／9／1	メディカルバレーフォーラム ～健康と運動～	三重県、三重大大学、三重TLO、みえメディカルバレー推進代表者会議
2010／9／4	鳥羽市文化フォーラム2010	三重大大学、鳥羽市、海の博物館
2010／9／10	第1回三重大・岡三シンポジウム	三重大大学、岡三証券グループ
2010／9／17	第3回環境健康学研究会	みえメディカル研究会

日 時		名 称	主 催
2010/9/22		物産シンポジウム 「三重の物産のブランド顕在化を考える」	三重大学社会連携研究センター
2010/10/26		物産シンポジウム 2 「日本縦断ブランドの融合～北海道・津・沖縄」 開催のご案内	三重大学社会連携研究センター
2010/11/12	2011/1/28	Mip特許塾	三重大学知的財産統括室
2010/11/17	2010/12/15	志摩市文化フォーラム2010 ～里海に生き、里海に学ぶ～	三重大学、志摩市
2010/12/4	2010/12/5	第11回ウェルネスの旅（神島・答志島）	いとしの旅舎
2010/12/4		三重県・三重大学連携新博物館シンポジウム	三重県、三重大学
2010/12/20		「イノベーション養成のためのサンドイッチ教育 （三重大学）」第一回ワークショップ	三重大学社会連携研究センター地域イノベーション養成室
2011/2/7		新春産学官連携講演・交流会	三重大学、三重TLO
2011/3/4		バイオディーゼル燃料『第4回BDFセミナー』	三重大学伊賀研究拠点・伊賀市
2011/3/18		名古屋駅前イノベーションハブ オフィス移転 一周年記念講演会	名古屋駅前イノベーションハブ運営協議会
2011/2/3-4		バイオクラスター交流会in三重	三重県、三重大学、三重TLO

出版物

出版物名	発行時期	発行部数
キャンパスインキュベータ パンフレット	平成22年5月	500
三重大学産学官民連携マガジン「Yui-結-」 vol. 5	平成22年6月	10,000
三重大学産学官民連携マガジン「Yui-結-」 vol. 6	平成22年11月	10,000
三重大学産学官民連携マガジン「Yui-結-」 vol. 7	平成23年3月	10,600
社会連携研究センター 研究報告No.18	平成22年12月	600

三重大学産学官民連携マガジン「Y u i-結-」について

当センターでは、平成20年5月より産学官民連携マガジン「Y u i-結-」を創刊いたしました。

「Y u i-結（ゆい）」とは、結ぶということ。また、結とは、相互扶助の精神を意味する言葉であり、労働力を出し合って行う田植え、稲刈りなどの生活の営みを維持していくための共同作業を指す、人々による共同体が形成される過程で生まれたとても歴史のある言葉です。

本誌「Y u i」は、地域圏大学である三重大学と地域社会との産学官民連携の取り組みのなかから、地域の良さを見つめ直し、三重地域が長い歴史の中で培ってきた潜在力を掘り起こして、未来につなげていこうとする雑誌です。

大学の研究者の研究にかける思いや地元企業が生みだしたこだわりの製品・技術など、さまざまな立場で活動する方々の生の声を拾い上げ、お届けします。人との結、産業との結、地域との結、そして、読者との結、さまざまな結びのかたちを紹介し、自治体、企業とも連動しながら、三重県に関係する人々のための「コミュニティ」づくりを目指していきます。

三重大学 産学官民連携マガジン

結

第8号

2011.6 Vol.08

Y u i

特集 特色ある まちの取り組みPR —伊賀市、紀北町 編—

対談 藤堂高虎に学ぶ
大門商店街の活性化
前編
売れる商品づくりに
必要な発想とは



三重大学
社会連携研究センター
Societal Cooperation Research Center



2010 年度 株式会社三重ティーエルオー活動実績

I 営業の概況

第 10 期営業報告（自 2010 年 4 月 1 日 至 2011 年 3 月 31 日）

過去 5 年間続いた国（経済産業省）からの助成金（2006 年度では約 2000 万円弱）が廃止されてから 4 年目にあたります。当年度は競争的研究資金や事業受託件数は減ったものの、以下に示すように、経常利益は 9,452,143 円となりました。

当期を含め、過去 4 年間収支は黒字で推移し、利益剰余金は資本金の 3 倍程度までに積み立てることができ、自立経営の基盤が整いつつある状況です。

収入

- ① 会費収入（11,170 千円）：リーマンショックの影響が尾を引いている情勢もあり、収入の柱の一つである会費収入は入会努力にもかかわらず、昨年度に続き、僅かですが減少いたしました。景気環境にかかわらず、会員を増やすことは産学官連携活動の指標にもなり、事業基盤を構成する部分と考えています。
- ② 大学からの事業受託収入（7,845 千円）：三重大学との知的財産技術移転および産学官連携活動の業務の受託契約収入で、前年並みです。
- ③ ロイヤルティ等収入（1,972 千円）：特許ライセンス活動は引き続き継続していますが、大学の出願特許数の減少などで、前年度より約 300 万円減でした。この面の収入増加も来年度以降の課題です。
- ④ 共同研究等関連収入： NEDO マッチングファンド事業（ゼブラフィッシュ関連プロジェクト）に関する企業から受入研究費 5 百万、NEDO 補助金 10 百万円（決算報告書の損益計算書を参照）を加えて収入は 16,133 千円となりました。それ以外は共同研究立上げに伴う管理費等としての収入です。
- ⑤ 団体等からの事業受託収入（24,421 千円）：みえメディカル研究会、伊賀市 B D F 高度化事業、など 11 件の事業を三重県・自治体から受託しました。
- ⑥ 企業・団体への技術指導および雑収入（4,199 千円）：企業の技術指導・研修、大学内研究設備の使用指導などの伴う収入および雑収入（徴収した研究会・技術講演会への参加費（1,057 千円：損益計算書の営業外収益を参照））などです。

支出

- ⑦ 人件費（14,959 千円）：内訳は役員報酬、500 万円弱、給料手当、約 1,000 万円です。なお一部のコーディネーター（NEDO フェロー、特許流通アドバイザー）は国から派遣されていますので人件費の計上をしておりません。
- ⑧ 大学へのロイヤルティ等還元費（1,655 千円）：還元費の増加は T L O の使命の一つです。
- ⑨ 大学・教官・研究室への研究費等還元（23,256 千円）：T L O を経由して大学等に還元された分（調査研究費、講師料）です。これとは別に、T L O が仲介して直接に大学に企業等が支払った共同研究費や、企業から大学への奨学寄附金は、約 25 百万円になります。T L O 創立後、三重大学の共同研究件数（特に中小企業との）は倍増しましたが、この 2、3 年は頭打ちになっています。一方、昨年度は大学教官の技術指導により、塑性加工の新装置の上市や、特許の出願など産学官連携の成果は、引き続き生まれております。
- ⑩ 諸経費（16,419 千円）：主なものは、旅費交通費 3,111 千円、消耗品費 2,012 千円、会議費（講

演会主催費用など)1,456 千円です。

以上の結果、収入総額 (65,741 千円) から支出総額 (56,289 千円) を引きまして、決算報告書の損益計算書に示しますように、経常利益は、9,452 千円となりました。

損益決算書

(2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日 単位：円)

I. 営業損益		II. 営業外損益	
1 会費収入	11,170,000	1 営業外収益	
事業受託収入 (大学関連)	7,845,244	補助金収入	10,000,000
ロイヤルティ等収入	1,972,379	雑収入	1,056,892
共同研究等関連収入	6,132,500	営業外収益合計	11,056,892
事業受託収入 (公共団体)	24,420,913	経常利益	9,452,143
技術指導料等収入	3,142,829	税引前当期純利益	9,452,143
売上高合計	54,683,865	法人税・住民税等	2,761,800
2 販売費及び一般管理費	56,288,614	当期純利益	6,690,343
営業利益	▲ 1,604,749		

II. 三重 TLO の現況 (2011 年 7 月 1 日現在)

(TLO の承認 (承認 TLO) : 2002 年 4 月 16 日 文部科学大臣、経済産業大臣)

1. 株式の状況

(1)発行する株式総数 800 株 (2)発行済株式総数 260 株 (3)株主数 185 名

2. 従業員の状況

常勤管理者 1 名 (代表取締役)、コーディネーター 5 名 (週 5 日勤務・2 名、4 日勤務・1 名、3 日勤務・1 名、1 日勤務・1 名)、事務補助者 3 名 (パートタイマー)

3. 取締役及び監査役

代表取締役 圓城寺英夫、取締役会長 森野捷輔、取締役 武田保雄、取締役 菅原庸、
取締役 村上一仁、取締役 國枝勝利、取締役 松井純、監査役 相可友規、監査役 田中忍

III 国、県等からの委託事業・補助事業等

国：NEDO 大学発事業創出実用化研究開発事業費補助金 (NEDO マッチングファンド)

「網膜疾患の蛍光画像診断を実現する蛍光染料プローブの実用化研究」(H21～22)

県：みえメディカル研究会の運営 (三重県健康福祉部委託)

みえ研究交流サロンの運営 (三重県農水商工部委託)

市、商工会議所、商工会からの調査事業等の受託 7 件

みえ産学官研究交流フォーラム実行委員会事務局

IV. 特許出願及び技術移転状況

三重 TLO が承認 TLO として認定された、H14 年以降の三重大学の国内特許出願状況は、図 1 に示す通りです。

平成19年度以降は安定して50件以上の特許出願件数を維持しております。

H22年度の分野別特許出願状況は図2に示す通りであります。医療分野と電気機械関連の特許出願多くなされました。

また、特許出願件数の約2/3は企業との共同出願でありました。

平成22年までの技術移転の累積件数を図3に示しましたが、H22年単年度では、実施許諾件数が1件、権利譲渡件数は3件でありました。また、TLOがH21年度に企業から得たロイヤリティー収入の総額は、消費税込みで約206万円に留まりました。

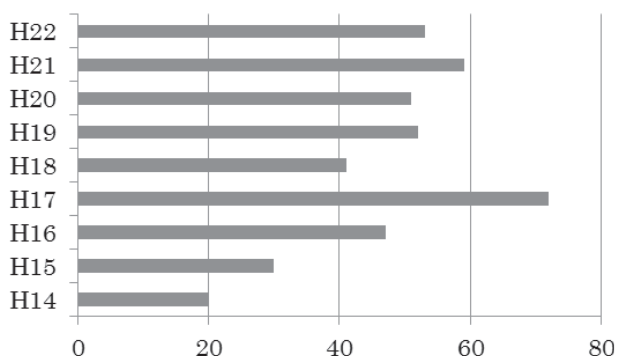


図1. 平成14年以降の特許出願状況

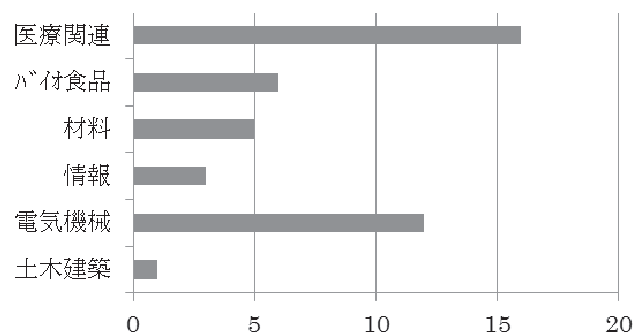


図2. 平成22年度分野別出願状況

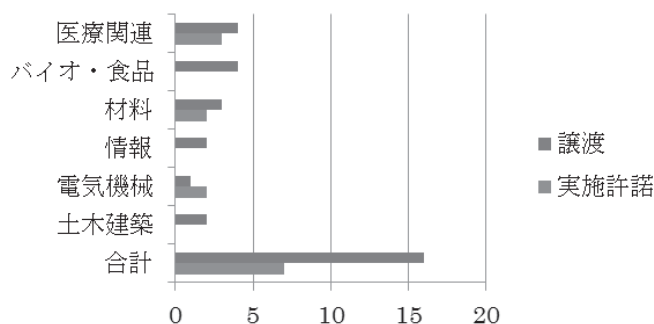


図3. 平成22年度までの技術移転状況

V 行事等

①三重TLO交流会の開催

②三重TLO技術情報クラブ会報の発行

③三重大学生の就職・企業の学生採用支援活動

- ・中部電力グループと地元企業合同企業説明会（三重大学大学院工学研究科、中部電力との共催）
- ・「就活キャンパス in 三重大学」（4年学生向け地元優良企業等の合同説明会）

④その他

みえ産学官研究交流フォーラム 2010（三重リーディング産業展で開催）出展

（報告：杉山、國枝）